

声をかたちに あなたの願いを 市政へ

統一地方選挙を経て、新しく7名の議員団となって迎えた6月議会(6月5日～6月28日)では、みなさんの声をかたちにするためちからをあわせて議会論戦にのぞみました。さいたま市の税金の使い方を、一人ひとりのくらしを大切に、市民の利益最優先に変えるよう、これからも全力でとりくみます。



左より)とばめぐみ、とりうみ敏行、たけこし連、神田よしゆき、金子あきよ、松村としお、久保みき

一般質問

核兵器禁止条約の批准を

「核なき世界」を手渡すために

たけこし連【中央区】

2017年に核兵器禁止条約が採択され、市長も署名をしたヒバクシャ国際署名も971万筆を超えました。全国377の自治体が、国に対して核兵器禁止条約に署名すべきという主旨の意見書をあげています。

たけこし市議は、国連会議に市民代表として参加し、同条例制定の過程をリアルに見てきた経験を紹介し、「市長がイニシアチブを発揮し、国に対し核兵器禁止条約を批准するよう意見書をあげるべき」と質しました。

山崎正弘総務局長は「国の動向や国際社会の議論を注視しながら、被爆の実相や核兵器の恐ろしさを市民に伝え、核兵器廃絶に向けた機運醸成にとりくむ」と答弁。たけこし市議は、「核なき世界」を次の世代に手渡すために、日本が条約を批准し、核保有国にも参加を訴えることが必須だ、と強調しました。



一般質問

不登校問題

子どもと保護者の声を聞いて

とばめぐみ【見沼区】

さいたま市では2017年度、小学校で269人、中学校で850人の児童生徒が不登校になっています。とば市議は、埼玉県が保護者と教師のために開いた不登校セミナーについて紹介。「家まで学校の職員が迎えに来て、子どもを抱きかかえて連れて行かれた」など、本市の参加者の声を示し「教育機会確保法の付帯決議に照らして、これらの対応は認められないのではないか」と、学校の対応について迫りました。

久保田章副教育長は、「不登校児童・生徒の気持ちや保護者の意向に沿わない強引な対応は行われていない」との認識を示しましたが、とば市議は、無理な登校刺激はしない、学校から子どもを排除しない、その子が見つけた居場所を大事にするという3点を強調し、不登校の子どもと保護者の声をよく聞くよう主張しました。



一般質問

学習支援事業

一般競争入札は不適切

金子あきよ【南区】

貧困の連鎖をたつことを目的に、生活保護世帯などの中高生を対象に市が実施している学習支援事業は、福祉的な視点や継続的で丁寧な支援が求められます。ところが今年度一般競争入札が導入されたために、2012年の事業開始から受託してきたNPO法人から大手塾産業へと事業者が変更になりました。利用者は混乱し、学習教室の開催が遅れる事態も起きました。

金子市議は「事業の継続性や総合的な評価によって事業者を決定すべきと厚生労働省も通知を出している。今回、市が価格競争で事業者を選ぶ一般競争入札を導入したことは不適切だった」と、来年度以降の契約方法の見直しを求めました。また、利用者への配慮や事業者間の引継ぎなど、市の対応には誠実さが欠けていると批判しました。



重点 課題

子どもたちの安心・安全を守りたい!



保育園等の園外活動の安全対策に関する緊急の申し入れを行う

5月8日、滋賀県大津市の県道交差点で信号待ちをしていた保育園児と保育士の列に車が突っ込み、園児など16人が死傷するという痛ましい事故が発生したことを受け、5月31日、党市議団として市へ緊急の申し入れを行いました。(金子博志子ども未来局長が対応)

本市は認可保育園、幼稚園、認定こども園、小規模保育施設など、さまざまな施設があります。園庭のあるなしにかかわらず、子どもたちが安全に園外活動を行えるよう、ガードレールなどの設置をはじめ、安全対策のための予算措置、職員配置基準の引き上げなど、あらゆる対策を講じるよう求めました。

エアコン設置と トイレ改修が前進



党市議団は子どもたちの健康を守り、学習環境を整えるために小中学校特別教室と学校体育館へのエアコン設置を求めてきました。昨年は文教委員会として、教育委員会に設置促進を求める申し入れを行うなど超党派のとりくみが広がっています。2月議会での中学校特別教室へのエアコン設置に続き、6月議会では補正予算に市立高校体育館へのエアコン設置や、小・中学校のトイレ改修が盛り込まれました。市民のみなさんの願いが一步步つ市政を動かしています。

【常任委員会・議会外質問】

住みよいさいたま市へ、多彩な提案

総合政策委員会



神田よしゆき

【北区】

時間外労働削減は 正規職員増で対応を

神田市議は市職員の適正配置について質しました。質疑の中で、時間外勤務が年間360時間を超える職員は1617名(前年比19名減少)いることが明らかになりました。市は各職員の1年間の総時間外勤務時間数を360時間未満にするという目標を立てているものの、現在の達成率は81.9%で目標達成に至っていません。神田市議は「時間外労働を減少させるカギは正規職員の増員にある」と主張し、重点的に職員を増やすための努力を求めました。

保健福祉委員会



とりうみ敏行

【浦和区】

民間学童保育の AED設置は市の責任で

とりうみ市議は民間学童保育へのAED設置を求めました。質疑の中で、公設の放課後児童クラブ(74ヶ所)は100%設置されているにも関わらず、民間学童保育は175ヶ所のうち42ヶ所、24%しか設置されていないことが明らかになりました。とりうみ市議は、「子どもの命に格差があってはならない」として、民間学童保育への公費支援を求め、市は「AED設置に伴う維持管理費も含めた委託料拡大について検討する」と答弁しました。

まちづくり委員会



松村としお

【緑区】

緑区の道路整備と 交通安全対策を進めて

松村市議は緑区の道路整備を求めました。産業道路については、太田窪北交差点から原山小学校までを1工区、原山小学校から駒場運動公園付近を2工区として進めています。質疑によって、1工区は2021年3月まで、2工区は2022年12月までの工事期間であること、また、原山第一歩道橋が撤去されることが明らかになりました。この歩道橋は通学路になっていることから、松村市議は子どもたちの交通安全対策もあわせて求めました。

文教委員会



久保みき

【桜区】

減少が止まらない サクラソウ保全を急いで

久保市議は特別天然記念物である田島ヶ原サクラソウ自生地のサクラソウの保全を求めました。サクラソウは、全盛期の2003年には235万株ありましたが2018年は66万株に減少。今年度はさらに54万株となり、前年度より12万株減少していることが明らかになりました。久保市議は「現地を視察し、一般質問などでも対策を求めてきたが、今年度は予算が倍増した。サクラソウはさいたま市の宝。なんとか減少を食い止めてほしい」と求めました。